



防災安全部
危機管理課 主事
中山 敬太 氏

防災安全部
危機管理課 主査
山本 大貴 氏

防災安全部
危機管理課 主事
中川 翔太 氏

災害現場のリアルタイムな情報収集にSmart-telecasterを活用。
災害対策本部で状況把握、的確な対策へつなげる。



Customer Profile 福井県防災安全部 様

防災安全部 危機管理課の主な業務は、災害対策基本法の施行、地域防災計画、危機対策の総合調整、国民保護法の施行、国民保護計画、原子力防災、防災行政無線に関すること。このうち、危機管理・国民保護グループでは、災害対策（風水害・地震等）、危機対策、国民保護などに関する業務を主に担当している。

現場からのリアルタイム映像を的確な災害対策につなげる

福井県防災安全部 危機管理課では、災害対応を行うにあたり、現場の状況を客観的かつ正確に把握すること、現場と災害対策本部の間での円滑なコミュニケーションが課題となっていた。

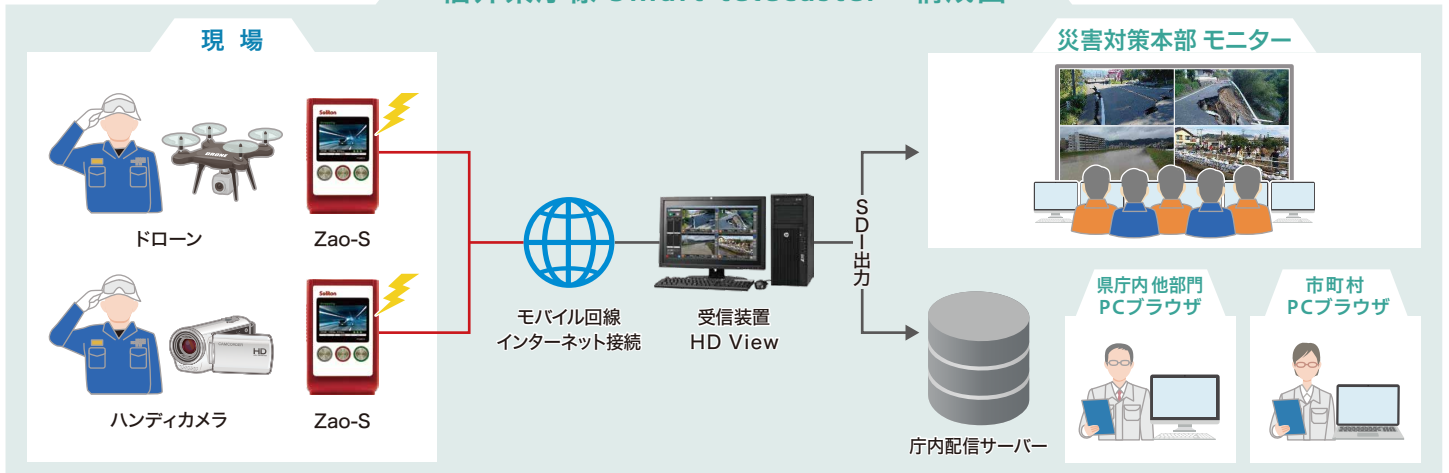
そこで、電話音声やメール文字といった従来のアナログな災害情報に代えて、映像でリアルタイムに情報共有ができるシステムの導入を検討。

電波の入りにくい場所からでも安定して映像伝送ができること、1つの通信会社で通信障害が発生した場合にも備えられることが導入の必須条件であった。

Smart-telecaster™
導入の主な目的・効果

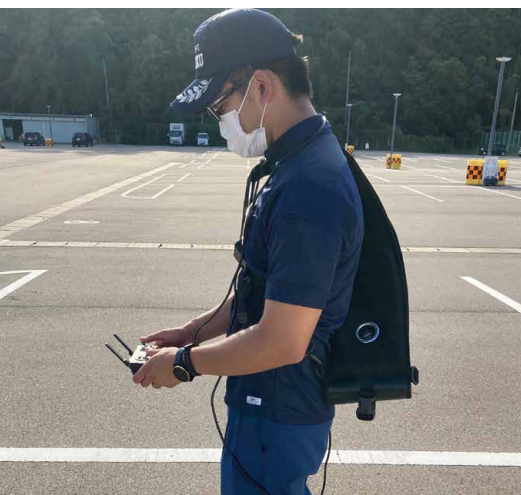
- 1 現場からの災害情報について、詳細な状況把握が課題となっていた
- 2 通信の安定性、高画質な映像が導入の決め手
- 3 現場と災害対策本部でリアルタイム映像を共有し、対策を検討

福井県庁様 Smart-telecaster™ 構成図



気候的・地理的災害リスクに対応する福井県防災安全部 危機管理課

福井県は、本州日本海側のほぼ中央にあって、北西は日本海側に面し、北は石川県、南東は岐阜県、南西は京都府、滋賀県に接している。気象は日本海側気候で、多雨多雪地帯に属し、冬はたびたび大雪となる。春に発生することがあるフェーン現象が大火の



要因となりうるほか、積雪の多かった年には、融雪洪水が起こることもある。梅雨末期は北陸付近に前線が停滞するため、大雨に注意が必要である。台風での直接災害は6月から10月の期間に多く、中でも9月に大きな災害が集中する。また、県内には15基の原子力発電所が立地する。

福井県では、原子力災害、震災、石油類大量流出災害、事故災害、雪害への各対策からなる福井県地域防災計画を策定・実施している。

Zao-S + HD Viewで災害現場のリアルタイムな情報収集を実現

危機管理や災害対応の場面では、客観的かつ正確な情報が求められる。

従来、災害発生時、消防や現場からの災害情報は、電話音声やメール文字のみのアナログ情報が主だった。

電話やメールでの報告は、報告者の主観的な解釈や感情が影響を与える可能性が高く、主観的で属人的な内容になりがちである。加えて、情報が不足し、正確な状況把握が難しくなる場合がある。

危機管理課では、現場からの報告をリアルタイム映像伝送によって行うことで、上記の課題を



解決できると考えた。

映像による報告は客観的で、状況の全体像から細部まで正確に伝えることができる。

また、映像を送信側（現場）・受信側（災害対策本部）が同時に確認することにより、精度の高い情報共有が可能になり、災害対策本部での的確な行動計画の策定につながる。

それから、状況が急変する可能性がある場合、メールや電話では情報伝達が遅れることがあるが、リアルタイム映像伝送では、問題や緊急

事態に素早く対応できる。

検討の結果、採用されたのはソリトンシステムズのSmart-telecaster Zao-S + HD View。福井県防災安全部 危機管理課では、山間部での土砂崩れ発生時の災害対応のため、土木事務所7か所にZao-Sを配備した。

災害発生時に担当者が現場へいち早く駆けつけて、スマホやハンディカムで現場を撮影し、Zao-Sで現場の状況を災害対策本部へ送信。災害対策本部で映像を確認し、孤立集落への支援など対応策の検討を行っている。

その他、年に2回の定期的な訓練にもZao-S + HD Viewを使用。災害に備えている。

通信の安定性、高画質な映像、双方向でのやりとり、簡単な操作

福井県防災安全部 危機管理課 危機管理・国民保護G 主事 中山 敬太氏は、Smart-telecaster導入のポイントについて次のように語る。

「Zao-Sは3回線を束ねて使用でき、通信の安定性が見込めることが、まずは良い点でした。1キャリアで通信障害が発生した場合にも映像

が途切れないのは、特に災害時において重要なポイントになります。また、映像の綺麗さには驚きました。映像により得られる情報は非常に有益だと感じています。映像を見ながら音声でのやりとりを行えることも送信側・受信側間のスムーズな情報共有に役立っています。それから、操作が簡単なのも良い点です。担当者の異動が多いのですが、引継ぎ時の負担が少なく、とても助かります。」

今後も広がる用途

「ゆくゆくは大雪対策、帰宅困難者対策等ドローンも活用していけたら良いと考えています」と中山氏。

ドローンに関し、かつては活用していた時期もあったが、操縦者不足や、使用のための申請の煩雑さをはじめ法規制を受け、現在は上空からの状況把握はヘリコプターからの映像のみとなっているとのこと。

人が立ち入れないエリアでの映像伝送ニーズは間違いなくあると福井県としても認識しており、Zao-Sはドローンの映像もリアルタイムで伝送することが可能な機器であるため、今後はより可搬性に優れたドローンも活用していきたい



いと構想を持っている。

なお、Smart-telecasterは、福井県防災安全部 危機管理課 原子力防災対策グループへも導入されている。

ソリトンシステムズは、地域の安全・安心な暮らしを守る自治体の力となれるよう、より一層、製品・サービスの拡充を図っていく。

問い合わせ

Soliton®

株式会社 ソリトンシステムズ

映像コミュニケーション事業部営業部
https://www.soliton.co.jp/

〒160-0022
東京都新宿区新宿 2-4-3
TEL:03-5360-3860 FAX:03-5360-3888
mail: stc-sales@list.soliton.co.jp